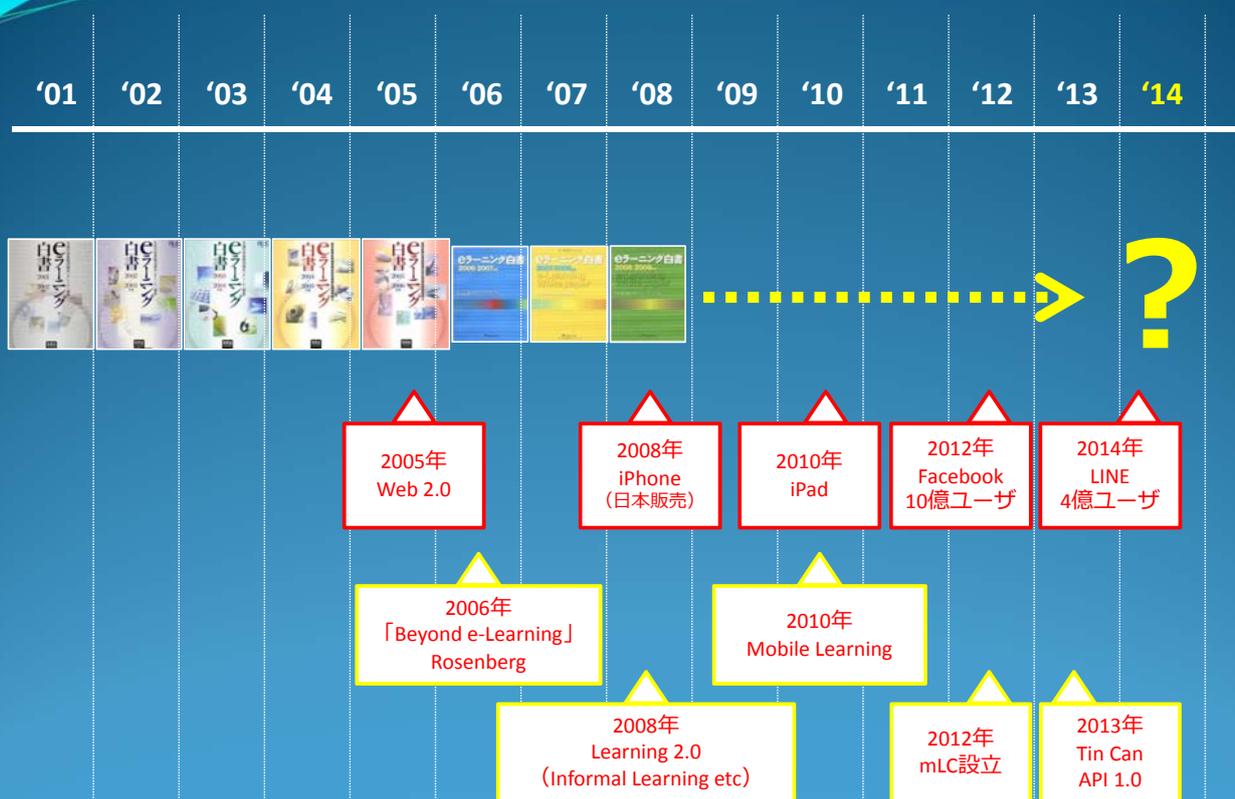


# SCORM/TinCanに関するアンケート 結果報告

2014年8月27日  
日本イーラーニングコンソシアム  
調査委員会 小橋 岳史

## 0. eラーニングをとりまく流れ



## 1. eラーニングに関する市場調査

2014年より

- ・ ユーザ直接参加型の市場／動向調査
- ・ 結果のフィードバック
- ・ 集約してご報告



かつての「eラーニング白書」の現代版として、よりオープンかつ実態に即した情報の収集／発信のハブとなるよう活動して参ります。

## 1. eラーニングに関する市場調査

### 年間調査スケジュール（予定）

2月：eL利用の全般的な状況

（4月： ）

6月：SCORM（Tin Can）

8月：ソーシャルラーニング

10月：モバイルラーニング

12月：eLP、資格関連

本日のご報告！

- ・ 基本偶数月に2wほどアンケート実施、翌月に発表
- ・ 毎年定点観測し変化を追っていく

## 2. 調査結果のご報告

### 第二回調査の概要

#### ～SCORM/TinCanに関するWebアンケート～

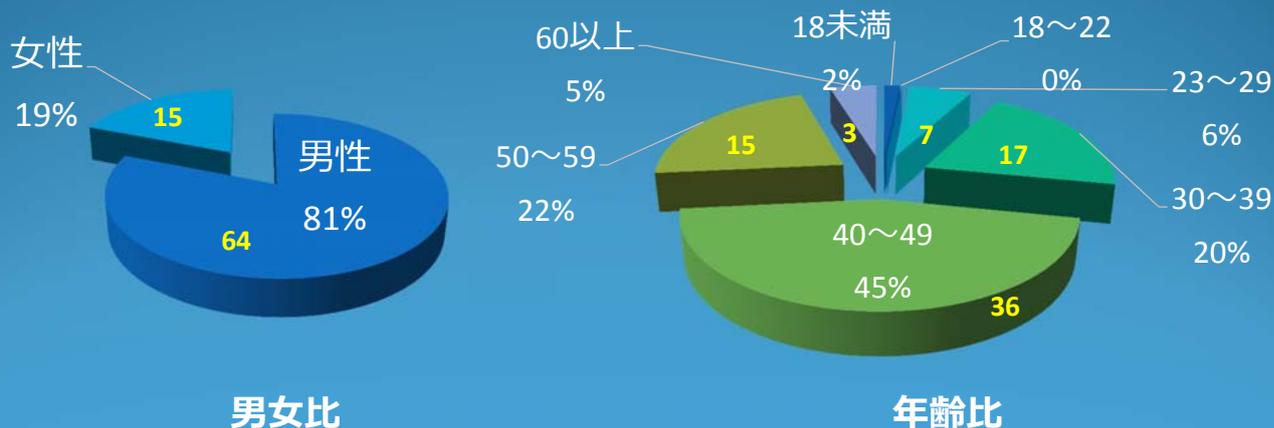
- ・ 調査期間 : 2014年7月1日～8月15日
- ・ 回答者数 : 79名
- ・ 使用ツール : Google Apps
- ・ アナウンス : eLCのMLなど

## 2. 調査結果のご報告

### 第二回調査の概要

#### ～SCORM/TinCanに関するWebアンケート～

- ・ 調査期間 : 2014年7月1日～8月15日
- ・ 回答者数 : 79名
- ・ 使用ツール : Google Apps
- ・ アナウンス : eLCのMLなど

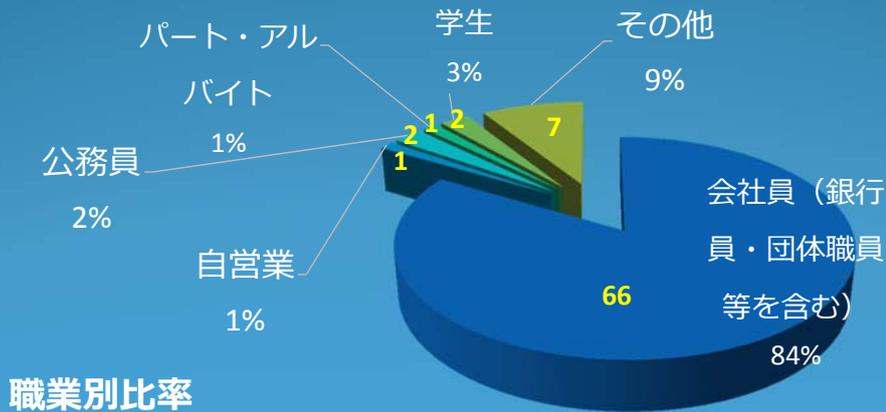


## 2. 調査結果のご報告

### 第二回調査の概要

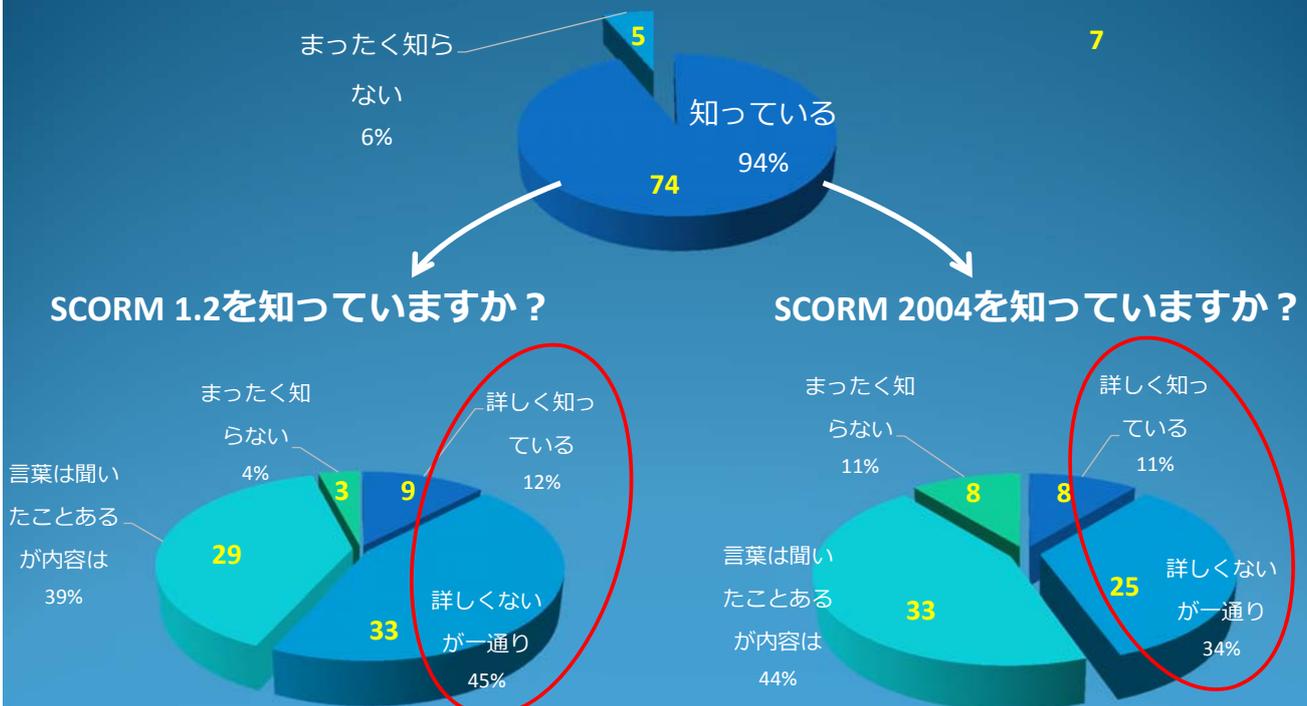
#### ～SCORM/TinCanに関するWebアンケート～

- ・ 調査期間 : 2014年7月1日～8月15日
- ・ 回答者数 : 79名
- ・ 使用ツール : Google Apps
- ・ アナウンス : eLCのMLなど



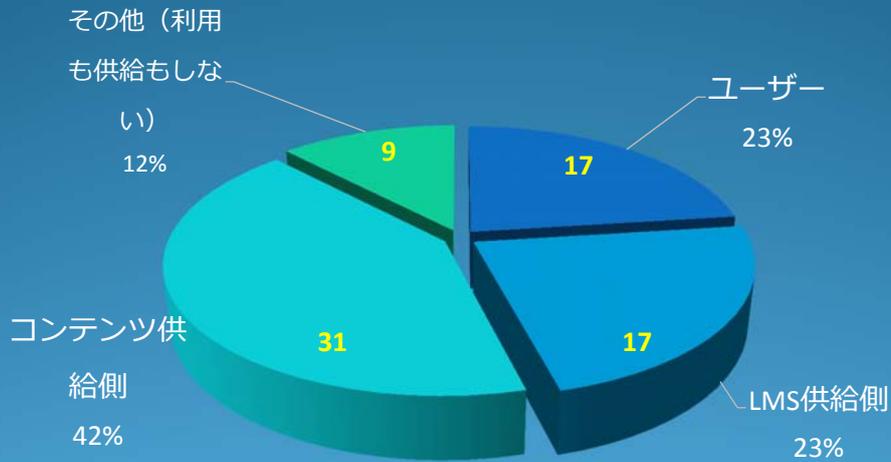
## 2. 調査結果のご報告

### Q. SCORM（eラーニングの標準仕様）をご存知ですか？



## 2. 調査結果のご報告

Q. あなたはLMSのユーザですか？ または供給側ですか？  
またはコンテンツ制作側ですか？



## 2. 調査結果のご報告

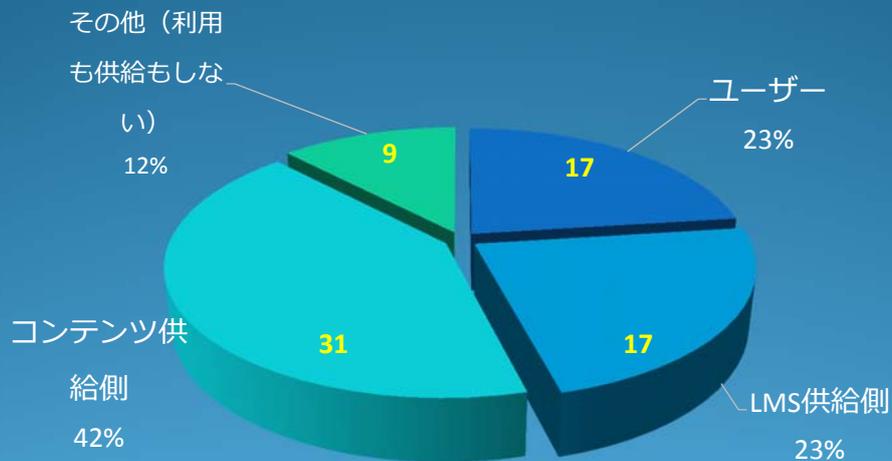
Q. (ユーザーの方へ) あなたが利用しているLMSはSCORMに対応していますか？ ……左のグラフ

Q. (ユーザーの方へ) あなたが利用しているコンテンツは一部でもSCORMに対応していますか？ ……右のグラフ



## 2. 調査結果のご報告

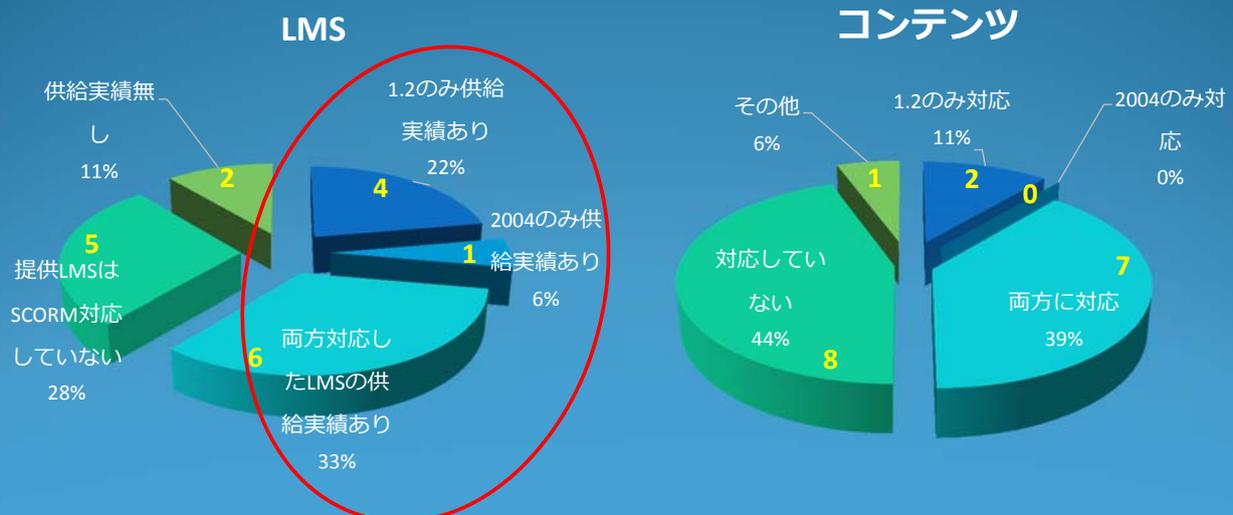
Q. あなたはLMSのユーザですか？ または供給側ですか？  
またはコンテンツ制作側ですか？



## 2. 調査結果のご報告

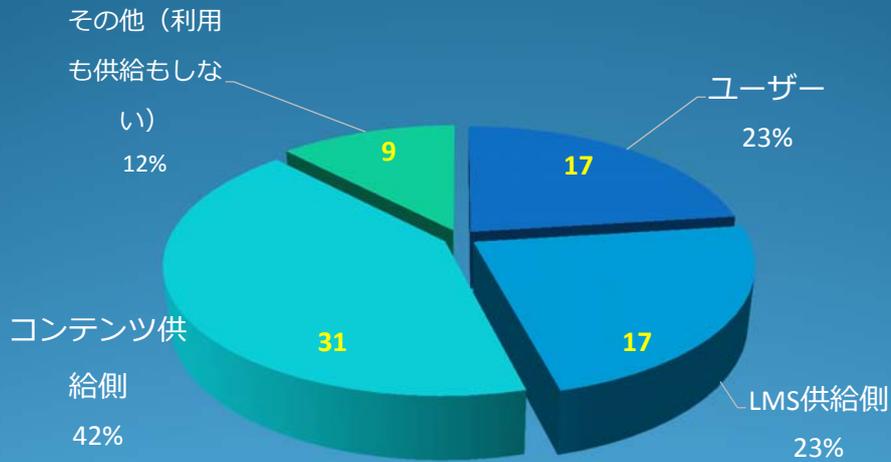
Q. (LMS提供側の方へ) あなたが提供しているLMSはSCORMに対応していますか？ ……左のグラフ

Q. (LMS提供側の方へ) コンテンツも提供している場合、そのコンテンツは一部でもSCORMに対応していますか？ ……右のグラフ



## 2. 調査結果のご報告

Q. あなたはLMSのユーザですか？ または供給側ですか？  
またはコンテンツ制作側ですか？

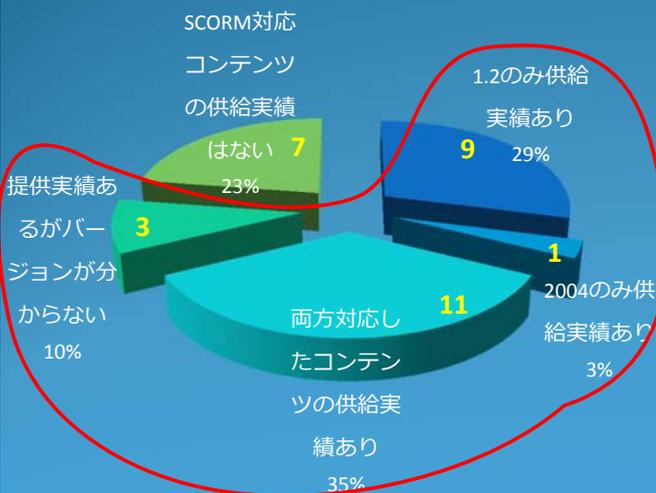


## 2. 調査結果のご報告

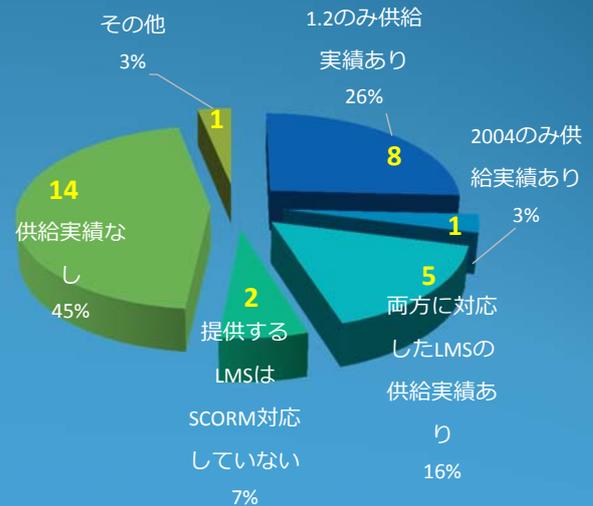
Q. (コンテンツ提供側の方へ) 提供コンテンツは一部でもSCORMに対応していますか？ ……左のグラフ

Q. (コンテンツ提供側の方へ) LMSも提供してる場合、そのLMSはSCORM対応していますか？ ……右のグラフ

コンテンツ



LMS



## 2. 調査結果のご報告

### Q. 今後、SCORMに対応するシステムやコンテンツを重視しますか？ その理由をお教え下さい。

<分からないため、知らないため、以外の主な理由>

#### 重視する：



- ・コンテンツの増加を推進するうえで、様々な調達方法を検討する必要があり、SCORM対応は避けて通れない
- ・大学等で利用されているオープンソースLMSの多くは、SCORM対応である事から技術資産が流用しやすい為。
- ・使いまわせる教材開発を念頭においておきたい為
- ・標準なので、無視できないと思う
- ・現時点では業界の標準規格であるため

#### 重視しない：

- ・SCORMの規格にグレーゾーンがあり、規格の解釈が会社・システムによって微妙に異なる。規格による（コンテンツの流通・再利用などの）メリットが発揮できていない
- ・手段として適切であれば使用するが、SCORM仕様であることが重要ではないので。
- ・もう時代遅れ

## 2. 調査結果のご報告

### Q. SCORMを利用するとどんなメリットがあるとお考えですか？

- ・LMSのシステム要件に縛られず、LMS間でコンテンツを移動して再活用できると認識している。
- ・LMSを変更しても既存コンテンツの流用が可能。同じくSCORM対応の外部コンテンツの流用も簡単にできる
- ・受講者の進捗履歴を記録できる
- ・規格に準拠することで実装できるLMSまたはコンテンツの幅が広がる
- ・教材の一般化ができ、異なるLMSプラットフォームに搭載が可能になる
- ・LMSに他のソフトで作成したコンテンツを取り込むことができる。環境が変わっても、作製したコンテンツを利用できる、費用面、作成時間などでメリットがある。
- ・LMSのプラットフォームを跨いで移植が容易。
- ・コンテンツ資産の継承、システムのリプレイス後のコンテンツ利用履歴管理の統一性
- ・教材の共有化
- ・問題作成の自由度が以前よりも増している。進捗具合が細かく設定できる。
- ・異なるLMS間でのコンテンツの相互運用が可能、制作時の学習コストの削減、システム提供の制作ツールに囚われないコンテンツ制作が可能

## 2. 調査結果のご報告

### Q. SCORMを利用するとどんなメリットがあるとお考えですか？

- ・ LMSのシステム要件に縛られず、LMS間でコンテンツを移動して再活用できると認識している。
- ・ LMSを変更しても既存コンテンツの流用が可能。同じくSCORM対応の外部コンテンツの流用も簡単にできる
- ・ 受講者の進捗履歴を記録できる
- ・ 規格に準拠することで実装できるLMSまたはコンテンツの幅が広がる
- ・ 教材の一般化ができ、異なるLMSプラットフォームに搭載が可能になる
- ・ LMSに他のソフトで作成したコンテンツを取り込むことができる。環境が変わっても、作製したコンテンツを利用できる、費用面、作成時間などでメリットがある。
- ・ LMSのプラットフォームを跨いで移植が容易。
- ・ コンテンツ資産の継承、システムのリプレース後のコンテンツ利用履歴管理の統一性
- ・ 教材の共有化
- ・ 問題作成の自由度が以前よりも増している。進捗具合が細かく設定できる。
- ・ 異なるLMS間でのコンテンツの相互運用が可能、制作時の学習コストの削減、システム提供の制作ツールに囚われないコンテンツ制作が可能

**回答の9割近くが異なるプラットフォーム間での相互運用性に関する内容で占められた**

## 2. 調査結果のご報告

### Q. 逆に、SCORMのデメリットは何ですか？

- ・ 標準規格とはいえLMSによって挙動が異なる。参考文献が少ない。仕様としての複雑さ
- ・ ユーザの利用価値が不明確な点です。
- ・ 仕様を満たすための手間がかかる。SCORMがあまり普及しておらず、廃れるかもしれないのに、手間をかけていられない
- ・ 自分の授業で使うために教材を製作している人にとっては複数のLMSで使えるようにするメリットが浮かばない
- ・ 対応範囲がまだ狭いと思われる。統一規格として本当に中心となり得るのか不明
- ・ 規格自体が技術に走りすぎており、誰も使いこなせていない。規格をフル活用したコンテンツを作るにはコストが高すぎ、費用対効果が得られることはまずないと感じる。
- ・ LMSごとにひつようとする情報が異なることに対応するために、冗長な情報を作成、保持しなければならず、専用のオーサリングツールが必要となり、かつメンテナンス性に欠ける。
- ・ コンテンツとLMSとの相互運用性が低く、仕様が曖昧な点を起因とする運用トラブルが起こりやすい。
- ・ SCORM準拠であっても、実はすべての機能が本当にどのLMSでも機能するかはやや不安なところがある。SCORMへの書き出し、あるいは読み込みには知識が必要で、誰でも手軽にというわけではない。

## 2. 調査結果のご報告

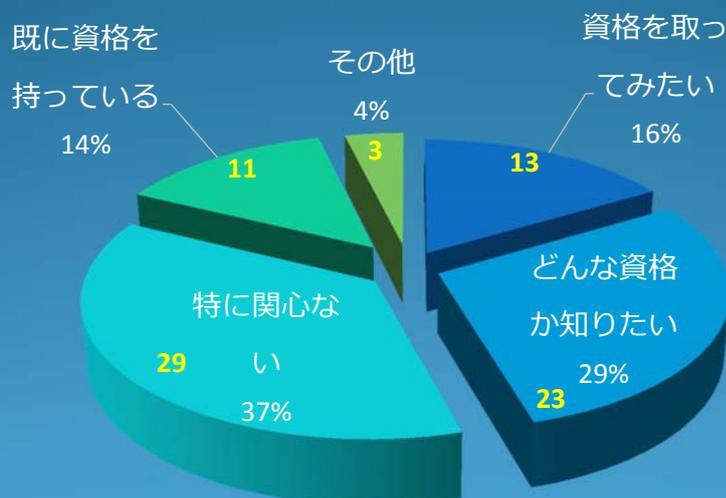
### Q. 逆に、SCORMのデメリットは何ですか？

- ・標準規格とはいえLMSによって挙動が異なる。参考文献が少ない。仕様としての複雑さ
- ・ユーザの利用価値が不明確な点です。
- ・仕様を満たすための手間がかかる。SCORMがあまり普及しておらず、廃れるかもしれないのに、手間をかけてもらえない
- ・自分の授業で使うために教材を製作している人にとっては複数のLMSで使えるようにするメリットが浮かばない
- ・対応範囲がまだ狭いと思われる。統一規格として本当に中心となり得るのか不明
- ・規格自体が技術に走りすぎており、誰も使いこなせていない。規格をフル活用したコンテンツを作るにはコストが高すぎ、費用対効果が得られることはまずないと感じる。
- ・LMSごとにひつようとする情報が異なることに対応するために、冗長な情報を作成、保持しなければならず、専用のオーサリングツールが必要となり、かつメンテナンス性に欠ける。
- ・コンテンツとLMSとの相互運用性が低く、仕様が曖昧な点を起因とする運用トラブルが起こりやすい。
- ・SCORM準拠であっても、実はすべての機能が本当にどのLMSでも機能するかはやや不安なところがある。SCORMへの書き出し、あるいは読み込みに知識が必要で、誰でも手軽にというわけではない。

仕様自体、メリットの有無、普及度合い、コスト、ベンダの対応など多様な理由

## 2. 調査結果のご報告

### Q. eLCが運用している「SCROM技術者資格」についてうかがいます。あなたはこの資格に関心がありますか？

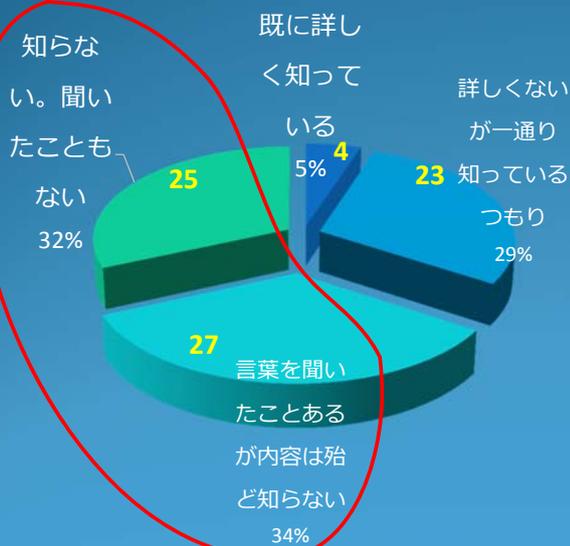


## 2. 調査結果のご報告

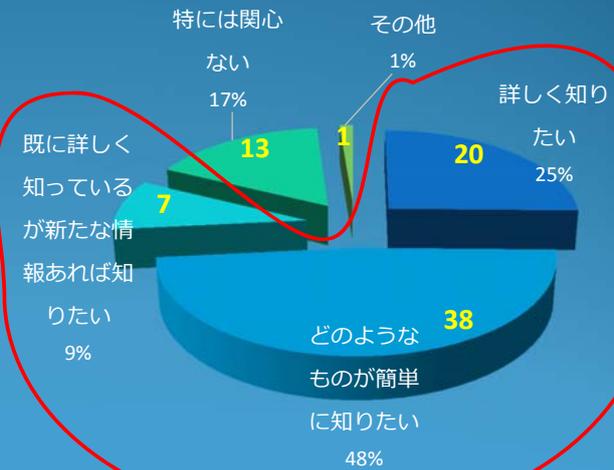
Q. TinCanの内容をご存知ですか？・・・左のグラフ

Q. TinCanに関心はありますか・・・右のグラフ

知っているか？



関心はあるか？



## 2. 調査結果のご報告

Q. 今後、TinCanに対応するシステムやコンテンツを重視しますか？ その理由をお教え下さい。

<分からないため、知らないため、以外の主な理由>

肯定的なもの：

- ・マルチデバイスとブレンディングラーニングによる学習記録を集計分析に多角的に利用したいから
- ・学習効果を可視化したいため
- ・標準化でメンテナンスや共有などが便利

否定的なもの：

- ・劇的に簡単に使える仕組みを作らなければ、SCORMと同様に理想だけで終わってしまうような気がします。
- ・人材育成という大きな目で見たとき、規格が貢献することは何か。新たに実現することは何か。大局の視点が欠落しているように見える。
- ・SCORMで懲りたので、標準規格は不要と考えます。



## 2. 調査結果のご報告

### Q. TinCanに期待することは何ですか？

- ・教育ビッグデータ分析の一つの技術として使えること
- ・教材内で完結しない柔軟な学びを管理できるようになってほしい。  
比較的ITに疎い教員でも利用できるようにしてほしい。そうでないと普及しない。
- ・SCORMの概念にあまりとらわれず、全く別のものとして発展してく事を期待しています。
- ・SCORMでカバーできなかったICTの学習履歴の統一的な記録
- ・e-Learningビジネスのマーケットの質的（教育的効果）・量的（金額的効果）の両面で貢献してくれることを期待しています。
- ・SCORMでは対応しきれない学習履歴情報の蓄積と多彩な活用方法（の可能性）
- ・学習インフラ、使用デバイスに依存しない、相互運用性の高い学習記録の仕組みを提供して欲しい。
- ・真の標準規格になってほしい

## 3. まとめ

### 今回の調査からみえたこと

- ・ SCORMの認知度は高い（が...）
- ・ SCORMのメリットはシンプル、デメリットは多様
- ・ TinCanはこれから

## 4. 今後の予定

2月：eL利用の全般的な状況

4月：

6月：SCORM（Tin Can）

→ 8月：ソーシャルラーニング

10月：モバイルラーニング

12月：eLP、資格関連

次回は「eLP、資格関連」をテーマにアンケート調査を実施予定です。

ML や Facebook 上で告知しますのでご協力お願いします！

## SCORM／TinCanに関するアンケート 結果報告

2014年8月27日  
日本イーラーニングコンソシアム  
調査委員会 小橋 岳史